

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3873700383
法人名	医療法人社団みのり会
事業所名	グループホームまほろば
所在地	愛媛県西予市三瓶町朝立2-1-7
自己評価作成日	平成23年10月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成23年11月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

自宅で使っていた馴染みのものを持ってきていただき、居室は、家庭で生活していた時と変わらないような雰囲気作りをしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●地域の夜市や秋祭りを見学に出かけておられる。併設のデイサービスとともに芋炊きや文化祭を催し、地域の方達にも案内して交流されている。地域の方から野菜をいただいたり、事業所の畑の草引きを手伝ってくださることもある。又、高校生の職場体験を受け入れておられたり、ボランティアの方も来られていて、利用者とお話等して過ごされている。新しい建物は、1階にデイサービス、2階に2ユニットのグループホームが設置されるため、今後はさらに、デイサービスやユニット間で交流を持つ機会を多く作りたいと考えておられる。
●近くのお地藏さんにお参りして、掃除をされている利用者の方もいる。2日に1回、ご家族の送迎で、ご自宅の犬の散歩と餌やりを続けておられる利用者の方がいる。ご家族の帰省時には、ご自宅に外泊される利用者の方は、ご自宅でご家族と一緒におまんじゅうやお団子を作って、皆へのおみやげに持ち帰ってくださる。時にはご家族が居室に泊まり、ゆっくりと過ごして帰られることもある。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい の				2. 家族の2/3くらい と
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	○	1. 毎日 ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目：11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

[記入方法]

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームまほろば

(ユニット名) 3階ユニット

記入者(管理者)

氏名

菊池 文孝(管理者)
増田 直美 石井 悠起子

評価完了日

平成23年 10月 1日

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
Ⅰ.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価) 利用者がその人らしい生活が続けていけるように支援するた めの理念を掲げ職員一同が共有して個々に合わせたケアを 行っている。	
			(外部評価) 「地域の保健・医療・福祉に貢献するため、役職員一丸と なって、知識・技術の向上につとめる」という法人理念のも と、事業所の運営方針を7項目掲げておられる。職員は、法 人理念と運営方針が示されたカードを携帯して、日々確認し ながらケアに取り組まれている。敷地内に新しい建物を建て ておられ、事業所は近々引っ越しされる予定となっている。 管理者はこの機会を活かして、「すべての職員で理念につ いて話し合う機会を作りたい」と、話しておられた。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に 交流している	(自己評価) 地域の行事に参加、ホームでの行事に地域の方やご家族に 参加の声かけを行っている。また、回覧板を回す時は、利用 者と共に出向き地元の方との交流を図るように努めている。	
			(外部評価) 地域の夜市や秋祭りを見学に出かけておられる。併設のデ イサービスとともに芋炊きや文化祭を催し、地域の方達にも 案内して交流されている。地域の方から野菜をいただいたり、事業所の畑の草引きを手伝ってくださることもある。又、 高校生の職場体験を受け入れておられたり、ボランティアの 方も来られていて、利用者とお話等して過ごされている。新 しい建物は、1階にデイサービス、2階に2ユニットのグルー プホームが設置されるため、今後はさらに、デイサービスや ユニット間で交流を持つ機会を多く作りたいと考えておられ る。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向 けて活かしている	(自己評価) 気軽に訪問できる雰囲気作りに努め、どんな些細な相談で も受け付ける体制をとっている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価)	
			地域の方やご家族の参加を得て近況報告や運営者との意見交換をし、質問などを受け付け今後のサービス向上に活かせるように取り組んでいる。	
			(外部評価)	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価)	
			会議等以外にも訪問や電話などで連携を図り、助言を求めているようにしている。	
			(外部評価)	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価)	
			身体拘束に職員が正しく理解し、利用者がのびのびと生活できるように支援している。	
			(外部評価)	
			玄関は、昼間は自由に出入りできるようになっている。転倒の心配がある利用者には、ベット柵に鈴を付けて、鈴の音が鳴ると職員は、そっと居室内を確認されている。	

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 身体だけでなく言葉による虐待にも防止についての資料などを回覧したり、職員同士で話し合い防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在では活用の機会はない。制度の把握のため機会があれば参加するよう努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には利用者ご家族に重要事項等の説明を行い契約内容の理解を図っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者の意見や要望は管理者がきちんと聞いている。ご家族には面会時などに積極的に会話をし意見を聞き、運営者、管理者又は職員を含め話し合いをすすめ運営に反映している。 (外部評価) 毎月、利用者の様子を書いた手紙と、ご本人の写真も同封し、ご家族に送付されている。3ヶ月毎の「まほろば新聞」には、お誕生日を迎えた利用者の紹介や職員の異動の報告、担当職員からのメッセージを載せておられる。又、利用者の誕生日には、「誕生日新聞」を作成してご家族に送っておられる。ご家族の来訪時にも、日頃の様子を報告して、意見や要望をお聞きしている。「芋炊き」の行事時等には、ご家族同士で交流を図っておられる。	今後さらに、ご家族とお話するような機会を積極的に作り、コミュニケーションを図って、信頼関係をより深めていけるよう取り組んでいかれてほしい。ご家族が意見や感想を具体的に出しやすいように、働きかけや質問の仕方等にも工夫されてみてはどうだろうか。利用する側であるご家族からの声は、事業所をよくするためにきっかけにもなることから、意見や要望を引き出せるよう努力していかれてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			代表者、管理者は職員の意見を聞く機会を設け、できる限りの回答をし可能な限り反映している。	
			(外部評価)	
			事業所には、3つの委員会があり、「業務改善委員会」「行事委員会」「園芸委員会」、職員はそれぞれに所属して、アイディアや意見を出し合って責任を持って活動されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			職員の意見に耳を傾け、聞き入れ時には職員との会話を通じ納得してもらえるように努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			法人内の勉強会には積極的に参加を促し出来る限り全員が参加するように心掛けている。スタッフの知識、力量の向上に努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			併設の病院、老人保健施設などにも出向き勉強会、講習会などに参加し交流や質の向上を図っている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			情報を出来る限り多く収集し、共有することにより、その人に合ったケアができるように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 見学や相談にはなるべく時間を多くとり、何でも話せる機会をつくり質問に回答し説明している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人と家族が必要としている支援と一緒に考えニーズに合ったサービスが利用できるような対応している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 食事を一緒に作り、会話しながら一緒に食べるなどし、毎日の生活の中で出来ないところは支援する体制を作っている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族との連絡を密にし、本人からの要望を伝えたりしてお互いの想いに配慮しながらよりよい信頼関係を築いている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族と連絡をとり、できる限り本人の要望に沿えるように努力している。又、面会に来られた際には本人の近況を報告している。 (外部評価) 近くのお地藏さんにお参りして、掃除をされている利用者の方もいる。2日に1回、ご家族の送迎で、ご自宅の犬の散歩と餌やりを続けておられる利用者の方がいる。ご家族の帰省時には、ご自宅に外泊される利用者の方は、ご自宅でご家族と一緒におまんじゅうやお団子を作って、皆へのおみやげに持ち帰ってくださる。時にはご家族が居室に泊まり、ゆっくりと過ごして帰られることもある。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 個々の性格、行動を把握し、利用者同士のトラブルなどないようにお互いに関わりをもちやすい環境作りに努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約終了後でも連絡をとり本人、ご家族が困ったことがあるときにはフォローできる体制を整えている。	
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 希望を聞いたり、会話や表情などから本人の意識をくみ取れるように努めている。 (外部評価) 利用者の暮らし方の希望をお聞きしたり、日々のかかわりの中から探り、利用者個々の思いや意向の把握に努めておられる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家族、ケアマネージャー、本人との会話により生活歴など聞き、過去、現在の情報収集に努め本人によりよく快適に過ごしていただくように努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) カルテ、申し送り、日誌を利用し、全職員が把握できるようにしている。又、日誌にはその日の状態がわかるように記録するように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			介護計画の作成時には、本人やご家族の意向も伺い、意向を取り入れた、介護計画を作成するようにしている。	
			(外部評価)	
			ご本人、ご家族の意向や希望をお聞きしながら、介護計画を作成しておられる。介護計画は、6ヶ月ごとの見直しとなっているが、毎月カンファレンスでモニタリングして、状態変化があればその都度見直しをされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	
			個別記録に日々の様子や変化を記録し、職員がいつでも見ることができるようにし、情報共有を行いよりよいケアができるように努めている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			個別の状態、ニーズに応じたサービスの提供支援ができるように取り組んでいます。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			地域の行事に参加するなど、利用者がいきいきと生活できるように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価)	
			本人、ご家族の希望があれば、希望の医療機関に受診も出来るようにしている。また、隣設の病院と連携しており、休日や夜間でも相談や診察してもらえる体制になっている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価)	
			医療連携している訪問看護ステーションより、週一回訪問看護師に来ていただいている。また、利用者の状態に応じ、いつでも相談できる体制をとっている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価)	
			連携している医療機関が隣設しており入院した際には、状態などについて情報交換や相談ができる体制をとっており、退院後について本人や家族の希望を踏まえて話し合いを行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価)	
			本人や家族と話し合いを行い、希望にそえるように努めているが、今までのところ終末期は病院に入院している。	
			(外部評価)	
			利用者やご家族からは「ホームで最期まで居たい」と希望もあるが、状態変化時には主治医とも話し合い、ご家族の希望で入院となることも多い。管理者は「できる限り事業所で過ごしていただけるように取り組んでいきたい」と話しておられた。終末期の支援について、利用者が主体のケアに取り組む事業所として、利用者やご家族と早い段階から話し合うような機会を作り、最期までその人らしく暮らせるような支援に努めていかれてほしい。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的に勉強会などを行い、応急手当の方法などについて、勉強をしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的年2回、夜間帯、日勤帯を想定して避難訓練を行っている。また、地域の方と協力体制をとれるように努めている。 (外部評価) 避難訓練では、エレベーターは使えないことを想定して、利用者を防火扉の外に避難誘導するように訓練されている。消防署からは火災の連絡より先に、利用者の誘導を行うようアドバイスを受けられた。津波警報が発令された場合は、隣接の母体病院の4階に避難するようになっており、法人では、3日分の水分や食料が備蓄されている。運営推進会議時、家族代表の方からは、「南海地震で津波が発生した際の対策をしてほしい」という希望も出されている。災害時には、地域の方にも協力いただけるようお願いされている。	災害は、いつどのような時に起こるか分からないため、時間帯を替えたり、暑さ・寒さ・停電等、いろいろなことを想定して避難訓練を繰り返し行い、利用者を安全に避難させるための方法を検討していかれてほしい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者一人一人の人格を尊重し、それぞれに応じた声かけに努めている。 (外部評価) 職員は、利用者一人ひとりへの言葉のかけ方や言葉のアクセントにも気を付けておられる。職員は、利用者とのコミュニケーションが取りにくい時には、他の職員と交代して対応するようなこともある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者にコミュニケーションの中で、利用者の思いや希望を聞き取ったり、くみとれるように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切に、その日をどのよ うに過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者のペースに合わせ、できることをその方のペースでし ていただけるように支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	(自己評価) 利用者の好みを把握し、一緒に洋服を選んでいただくなど し、その人らしさを尊重するようにしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に 準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者の状態に応じ、食事形態や味付けを工夫したり、準 備や後片付けなど、出来ることは一緒に行っていたい る。 (外部評価) 調査訪問時、昼食に使うゆで卵の皮をむいておられる利用 者がみられた。食事時には、みなのお茶を注いでくださったり、食後、ご自分の食器を下げて、洗っておられる方もおられ た。お隣の席の利用者の食器を置き換えて、その方が食 べやすいように手助けされている利用者もおられた。職員が 隣りに座り同じものを食べながら、利用者が持つスプーンに 食べるものを乗せると、ご自分で口まで運び食事をされてい た。利用者の状態に合わせて刻み食やミキサー食、とろみを 付けるなどの調理をされている。職員は、献立を説明しなが ら介助されていた。食後はコーヒーを飲みながらおしゃべり 等を楽しんでおられた。職員は梅干しやジャム、まんじゅうや 芋団子等、利用者に教えてもらって手作りされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	(自己評価) 状態に応じ、形態をかえたり、一人一人ペースに合わせた声 かけを行っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアを行っていただき、利用者の状態に応じ、 スタッフが口腔をチェックし、一部介助したり、舌の掃除を 行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	
			利用者の排尿、排便パターンを把握し声かけを行い、トイレでの自立した排泄ができるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(外部評価)	
			利用者一人ひとりに合わせてトイレ誘導と声かけをしておられる。昼食後、居室に向かう利用者に職員は、耳元で「トイレはいかがですか」と聞いておられた。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	
			個々にあわせ、順番や時間をずらしたり体調をみながら入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(外部評価)	
			現在は、利用者は、午前中に入浴することが多く、週3回を目安に支援されている。利用者の希望で、夏場は毎日シャワーを浴びる方もいる。ご自分で洗面器に石けんとタオルを用意している方もある。時には、利用者同士で誘い合ってお二人で入浴されることもある。全介助が必要な利用者は、職員2名で介助して、浴槽で温まれるよう支援されている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方箋など、いつでもスタッフが見ることができるようにし、どのような薬を飲んでいるかを把握し、症状の変化などの確認に努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者の好きな事、得意なことを通して楽しみや生きがいを見つけていただける要支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) スタッフの人数により、希望にそえない時もあるが、できる限り、利用者の希望に応じ、外に出かけられるようにしている。 (外部評価) 散歩されたり、自治会の回覧板を利用者と職員で次へ回しておられる。近くの「海の駅」や公園にも出かけておられる。「帰りたい」という気持ちが強い時には、散歩に誘う等して気分転換できるよう支援されている。季節のお花見に出かけられることもあるが、職員は「外出が少なくなって来ている」ことを感じておられ、これからは「個別の支援」に取り組んでいきたいと考えておられた。	外出支援については、ご家族にも支援への要望や意見をお聞きするような機会を作ってはどうか。利用者が地域の中で暮らし続けることができるような支援に向けて、地域資源を活用しながら、利用者個々が暮らしを拡げていけるような支援に工夫されてほしい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) おこづかいを持たれている方もおり、買い物などに行き、自分で買われることもあり、個々にあわせて管理、支援をしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話をされたり、お手紙を書かれた時には、一緒に出しに行ったりと個々の希望に応じて支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節ごとに飾りを変えるなど、利用者が四季を感じられるよう工夫したり、居室には家で使っていた、馴染みのものを飾るなど工夫している。	
			(外部評価) 廊下には、利用者の年代に懐かしい家具が置かれていて、その上には利用者が作ったお手玉や手まりが飾られていた。ソファーには、利用者手作りのパッチワークのクッションが置かれていて、利用者が脇に置いたり背中に当てて使用されていた。テーブルには菊の花を生けられており、観葉植物の鉢植えをとこどこに配されている。3階では、利用者手作りのぬいぐるみのお地藏さんが飾られていた。畳のコーナーでは、利用者が洗濯物をたたんでおられた。利用者が作った俳句や利用者の写真も飾られていた。箕にイチョウの葉を散らして、季節を感じられるような飾りを工夫されていた。壁には中振り袖の着物や帯も飾られていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 個々のの気に入った。ソファーやイスなどで、いつでも過ごしていただけるようにし、利用者同士でお話をされたり、一人で本を読まれたりと、思い思いに過ごしていただけるように努めている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家で使われていた、馴染みのものや、使っていたものを持ってきていただき、好みのものを飾るなど、本人が居心地よく過ごせるように工夫している。	
			(外部評価) テーブルや椅子、タンス、時計、ソファー、洋服掛け、スタンドシルバーカー等、ご自宅で使っていたものを持って来られて使用しておられる。お位牌を置いておられる方もいた。ご家族の写真や猫の絵、自作の俳句や昔撮った三瓶町の写真を飾っておられる方もおられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレ内と入り口に手すりを付けるなど、利用者が安心して使用できるように努めている。	